

血液培養ボトル出荷制限に伴う血液培養の単数セット採取による影響の評価

2024年7月13日-2024年12月31日まで、並びに2019-2023年の同時期に血液培養検査を受けた患者さん

研究協力をお願い

日本医科大学多摩永山病院中央検査室では「血液培養ボトル出荷制限に伴う血液培養の単数セット採取による影響の評価」という研究を行います。この研究は、2024年7月13日より同年12月31日までに日本医科大学多摩永山病院にて血液培養検査を受けられた患者さんを対象として、検査時に採取する検体のセット数の検査結果などに与える影響を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意は頂かずに、この掲示によるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡ください。

(1) 研究の概要について

研究課題名：血液培養ボトル出荷制限に伴う血液培養の単数セット採取による影響の評価
研究予定期間：研究機関の長の実施許可日～2026年12月31日
調査対象期間：2024年7月13日～2024年12月31日並びに2019-2023年の同時期
当院における研究責任者：日本医科大学多摩永山病院 中央検査室 遠藤育子

(2) 研究の意義、目的について

血液培養検査は敗血症などの診断や治療に必要な不可欠な検査の一つで、通常二本一セットの専用ボトルに血液を採取して行います。診断率を上げるために通常2セット以上の複数セットの血液採取が施行されますが、2024年7月より当院でも採用されている専用ボトルの供給が世界的に従来の半分となっており、やむなく検査精度を上げるための可能な限りの対策を講じたうえで、重症例などの一部の患者さんを除き原則単数セットで施行する状況となっております。同様の事態は東日本大震災の際に一部の地方で生じております。本研究の目的は、血液培養検査を単数セット採取にした際の影響を評価することで、有事などにより血液培養ボトルの供給が低下した場合の影響や、これらの影響を最小限に抑えるための注意点などを明らかにすることです。

(3) 研究の方法について (研究に用いる試料・情報の種類)

2024年7月13日より2024年12月31日までに日本医科大学多摩永山病院にて血液培養検査を受けられた患者さんの複数セット採取率や血液培養陽性率、入院期間や抗菌剤使用の種類・期間などを調査します。2019-2023年の同時期のデータと比較検討することで単数セットによる血液培養検査の影響を検証します。

【試料】血液 【情報】年齢、性別、疾患病名、菌種の分離株数、入院期間、使用された抗菌剤の種類・期間等
また、本研究施行は日本医科大学多摩永山病院の倫理委員会に申請し、倫理的に問題なく、公正な研究の遂行が可能と判断を受けたうえで実施しています。

(4) 個人情報保護について

研究並びに研究発表にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用されません。その他「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(文部科学省・厚生労働省)」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表します。

(6) 問い合わせ等の連絡先

担当者：中央検査室 遠藤育子、作間麻衣
日本医科大学多摩永山病院 倫理委員会事務局
〒206-8512 東京都多摩市永山1丁目7-1 電話番号：042-371-2111 (代表) 内線：2302
メールアドレス：nagayama-chiken_center@nms.ac.jp